

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 NPO 法人グローバルプロジェクト推進機構

1. 事業の趣旨・目的 外国籍および外国にルーツを持つ児童・生徒のための日本語および教科学習支援、地域住民(日本、外国)との国際交流も開催、iEARN(130カ国、40万の児童・生徒たちが参加する国際教育ネットワーク。主に学校同士の交流を推進)の海外の国との交流学习も行う。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
2011年3月 19日	(公財)兵庫県国際交流協会	福井良子 松岡広治 市田秀夫	学習の指針、 生徒の集め方 国際教育の在り方	初めて外国人児童・生徒の学習支援を行うため、経験の深いHIA、のこれまでの指導の仕方を教授いただく。生徒募集については、保護者の信頼がなければ、募集はむずかしいとの意見で、地域で長く日本語指導を続けている村山勇先生を通して募集することに決定。協力を依頼する。大きな海外のネットワークを持つ当団体の特徴、メリットを外国人児童・生徒たちに与えるために、国際交流の仕方を話し合う。年2回国際交流イベントを地域で開催することに決定。教室の名称がICLC学習支援教室では、わかりにくいとの指摘を受ける。「山の上日本語教室」の名称で募集をかけることに決定

2011年11月13日	海外移住と文化の交流センター	福井良子 村山勇 松岡広治	ひょうご子どもサミットの反省、日本語学習を通じた国際協働学習の在り方	多方面からの多くの協力を得た点で評価を受ける。 iEARNのネットワークの活用法を検討、日本語でカードを海外と交換するなど、日本語学習を通しての異文化理解を行うことに決定
-------------	----------------	---------------------	------------------------------------	--

【写真】

3. 日本語教室の開催について

- (1) 講座名 ICLC 学習支援教室(山の上日本語教室)
- (2) 開催場所 神戸市立海外移住と文化の交流センター
- (3) 学習目標

授業で困らない日本語能力、学習能力をつける。こどもたちの居場所づくりを目的に地域との交流をおこなう

- (4) 使用した教材・リソース:主に市販の学習教材(国語、算数)、
学校使用の教科書(国語、算数、理科、社会)
- (5) 受講者の募集方法 (公財)兵庫県国際交流協会、神戸国際交流センターへのチラシの配布、こうべ小学校と連携をとって、在学している、または卒業した児童・生徒を募集
- (6) 受講者の総数 15 人

中国 18 人、フィリピン 2 人

- (7) 開催時間数(回数) 76 時間 (全 38 回)(うちイベント 2 回)

(8) 日本語教室の具体的内容

①	4月10日	2時間	12人		8 1	
②	4月17日	2時間	12人	中国、中国語 フィリピン、英語	教授者 8人	国語学習 教科書準拠教材
③	4月24日	2時間	12人		8	
④	5月8日	2時間	15人		7	

⑤	5月15日	2時間	8人		7	
⑥	5月29日	2時間	8人		6	
⑦	6月5日	2時間	8人		2	
⑧	6月12日	2時間	15人		2	
⑨	6月19日	2時間	15人		2	
⑩	7月3日	2時間	15人		2	
⑪	7月10日	2時間	12人		2	
⑫	7月31日	2時間	12人		2	
⑬	8月7日	2時間	15人		3	
⑭	8月21日	2時間	15人		3	
⑮	8月28日	2時間	12人		4	
⑯	9月4日	2時間	15人		5	

⑰	9月11日	2時間	10人		5	
⑱	9月25日	2時間	8人		5	
⑲	10月2日	2時間	8人		4 1	
⑳	10月9日	2時間	15人		4 1	
㉑	10月23日	2時間	15人		7 1	
㉒	11月6日	2時間	15人		7 1	
㉓	11月13日	8時間	15人		2	
㉔	11月20日	2時間	15人		7	
㉕	11月27日	2時間	15人		8	
㉖	12月4日	2時間	15人		8	
㉗	12月11日	4時間	40人		8	

28	12月18日	2時間	12人		1 6	
29	12月25日	2時間	13人		5	
29	1月8日	2時間	15人		8	
30	1月15日	2時間	15人		7	
31	1月22日	2時間	15人		8	
32	2月5日	2時間	13人		8	
33	2月12日	2時間	12人		8	
34	2月19日	2時間	15人		8	
35	3月4日	2時間	15人		8	
36	3月11日	2時間	15人		8	

③7	3月18日	2時間	13人		8	
----	-------	-----	-----	--	---	--

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)



4. 事業に対する評価について

(1) 当初の学習目標の達成状況

来日直後はこうべ小学校の国際教室で日本語学習を行うが、しばらくすると一般教室に戻る。問題はそこから多くの児童は日本語能力不足のため国語を含めた教科学習の学力不足が深刻である。当教室に来た児童も同じ問題を抱えていた。学習時間を前半と後半に分け、前半の学習の中心は教科書を準拠した国語教育をおこない、そこにその子のレベルにあった漢字、文章教材を与えた。後半は算数、理科、社会を希望に応じて学習支援を行った。また、後半は、国際交流活動にも行い海外との交流活動でカードづくりや習字をおこなった。

(2) 学習者の習得状況

一番の問題は彼らの学習意欲がとぼしいことであった。また、一人一人の学習レベルが違い、グループ学習は無理であった。そこで教授者の数を増やして、よりきめのこまかい学習を行った。その結果、学習態度が積極的になった。

(3) 日本語教室設置運営の効果, 成果

日本語教室は、昨年、月3回の日本語学習教科学習と、月1回程度の国際交流活動を行った。

日本語学習は、多様な日本語、学習能力に対処するため、一人一人のレベルと希望に沿って、指導経験豊かな講師とともに、きめこまやかで質の高い日本語学習を行ってきた。講師の一人は、この教室の良さとして、「会場に余裕があり、ゆったりと学習できる点。学習者が一生懸命である点。学習者と支援者の関係が良好で雰囲気がいい点」をあげている。国際交流活動は、「交流を深める」ことをテーマに、日本語を使って行い日本語を書く機会を増やした

交流学習はアメリカ、イギリス、の小学校と「カード」を作って、送り合う交流を行った、受講生たちには、日本の行事を紹介するカードを作ることを提案して、日本の文化を学び、それを相手校に日本語で書いてもらった。カードを自由にテープやシールなどで飾っていいとすると喜んでた。

後日交流校から相手が描いたカードが大量に送られてきた。受講生たちが海外との交流の楽しさを実感したのは、この時であったろう。その後、書道を通しての交流の時は、積極的にかわる受講生が増えた。彼らの作品は電子媒体で iEARN の交流フォーラムに送り、実物は神戸大学の学生たちによって、東北に運ばれた。

また、地域との交流の際は、成人日本語学習者も協力して、自分たちの郷土料理を作って児童生徒たちを招待するカルチャーディに発展していった。

(4) 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

受講生たちを地域の人と交流させたい、という思いは、運営を手伝ってくれているスタッフたちの中で、大きくなり、昨年11月には、地域に住む外国人と日本人とその子どもたちとの交流会に発展した。これは地域の日本語教育の団体や外国人コミュニティ、県、市などの官庁、教育委員会、地域の小・中学校の理解と支援を受け、子どもたち同士の交流のサポートを行う内容のものであった。大人を含めて100名ほどの参加者があり、受講生たちは、大学生ボランティアとともに世界の遊びを楽しんだ。こどもたちの心に「大人は自分たちを大切に思い、見守ってくれている」という気持ちが育つことをいっている。

このイベントの一番評価すべきところは、このイベントを支援するために多くの団体が手を差し伸べた点だろう。 自国紹介の資料を提供した各国領事館、学生ボランティアを送ってくれた神戸大学などの近隣大学、イベントを後援してくれた兵庫県、神戸市、県教委、市教委などの官庁、共催の兵庫県国際交流協会、子どもたちに参加を勧めた近隣の小学校、中学校、高校、国際学校、外国人コミュニティなど、実に多様な人々がイベントの趣旨に賛同し、支援をしてくれた。

イベントをきっかけとして、この地域・団体との連携は、より広がりを見せている。

(5) 改善点, 今後の課題について

① 現状

資金の有無で、存続が不安定になることである、受講生が小学生、中学生のために有料にすることができない。講師を無給のボランティアにすれば、支援がなくても教室の継続は可能であろう。しかし、この場合、短期はともかく、長期的、継続的にボランティアを確保することは必ず

かしい。

この活動の拠点である「海外移住と文化の交流センター」周辺には、元町の中華街を始め多くの外国人が暮らしている。彼らは、夜遅くまで、働くため、留守を守る子どもたちは、孤独と向き合う状態である。学校があるときは、まだ友人たちと過ごせても、週末も家に一人でいる子どもたちが多い。当教室が子どもたちの「居場所」になることを望んでいる。

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

子どもの学習能力が飛躍的に伸びた結果を出すには、1年は短い期間であるが、当教室を支援してくれている村山先生によると、「この周辺には、週末外国人児童・生徒を受け入れてくれる場所は今までではなかったです。彼らにとってこの教室は、いごちのいい場所になっているようです。また、学習環境も他から比べても恵まれている」と激励のメッセージが届いた。

② 実施主体からの研修内容結果評価

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

今期の日本語教室は、日本語学習、教科学習、国際交流学習に加えて、自分たちの学習の成果を他から評価されるものにするために、定期的に「学習発表」の場をつくり、保護者、学校関係者、地域住民を招待して行っていきたい。教科指導する人材も近隣の大学や住民に声をかけてボランティアをもっと増やしてゆきたい。

当団体は「世界とともに学習する」教育団体である。日本語に興味を持つ海外の児童・生徒は多い。交流学習支援には各国の教員たちがついてくれるので、学習効果も高くなる

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

② 研修後の人材活用

(12) 今後の課題

② 今後の課題

③ 今後の活動予定, 展望

(6) その他参考資料

ひょうご子どもサミット、カルチャーディ実施報告書

日本語教室の学習風景のアルバム

JEARN 通信 2 部